

地震調査研究推進本部が行う 地震に関する総合的な評価の概要



地震調査研究推進本部ホームページ <https://www.jishin.go.jp/>

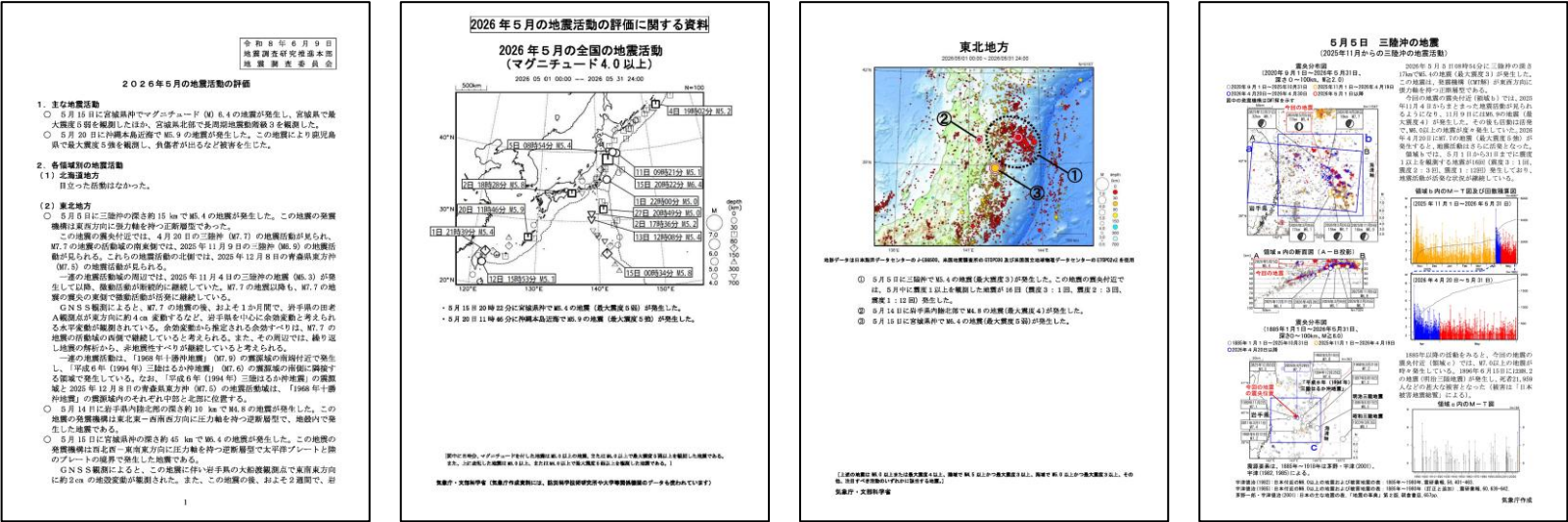
文部科学省 研究開発局 地震火山防災研究課
(地震調査研究推進本部 事務局)

地震調査研究推進本部が行う地震に関する総合的な評価

地震調査委員会による科学的な知見に基づく地震に関する総合的な評価と、その成果の地震防災関係機関及び国民に対する広報活動を通じて、防災・減災対策や地震への備え等を促し、地震による被害の軽減に貢献する。

評価項目	評価内容	意義・目的
現状評価 (定例会)	毎月、前月に発生した主な地震の特徴やその後の地震活動の推移等を含め、全国の地震活動の現状を総合的に評価	地震防災関係機関等が、地震活動の現状を踏まえ、 <u>適切に対応</u> することに資するとともに、地震に対する <u>国民の関心の喚起・維持</u> と正しい理解を促進する
現状評価 (臨時会)	被害地震発生後等、速やかに臨時会を開催し、当該地震の特徴やその後の地震活動の見通しなど活動推移等を含め、当該地震活動の現状を総合的に評価	評価結果の迅速な公表により、今後の地震活動の推移等を踏まえ、地震防災関係機関及び国民が <u>復旧活動</u> 等を適切に展開できるよう貢献する
長期評価	活断層で発生する地震や海溝型地震を対象に、 地震の規模や将来の一定期間内に地震が発生する確率等 を評価	地震防災関係機関による 防災対策の推進 や、地震とその被害軽減に対する <u>国民の関心の向上</u> に貢献する
強震動評価	強震動予測手順の標準化や、予測で用いる地下構造モデルを作成するとともに、活断層で発生する地震や海溝型地震が発生した場合の 強震動、長周期地震動、応答スペクトル を評価	国や地方公共団体が行う被害想定、 <u>防災計画の立案</u> や、建築物・構造物の 耐震設計等 に貢献する
全国地震動予測地図	震源断層を特定した地震動予測地図(※1)と確率論的地震動予測地図(※2)から構成される全国地震動予測地図 を作成 ※1) 活断層で発生する地震や海溝型地震について、ある特定の地震が発生した場合の強い揺れを評価 ※2) 長期評価と強震動評価を組み合わせ、将来の一定期間内に、ある地点が一定の強さ以上の揺れに見舞われる確率等を評価	全国の任意の地点における地震動ハザードを示すことで、 <u>防災計画や長期的なまちづくり、国民の防災意識の高揚、BCP(事業継続計画)の策定、耐震設計等の優先順位検討、地震保険の基準料率算定等</u> に貢献する
津波評価	津波予測手順の標準化や、長期評価で想定された大地震発生により、将来の一定期間内に海岸の津波高がある高さ以上になる確率を評価	津波 防災・減災対策 に貢献する

1. 現状評価：毎月の地震活動評価



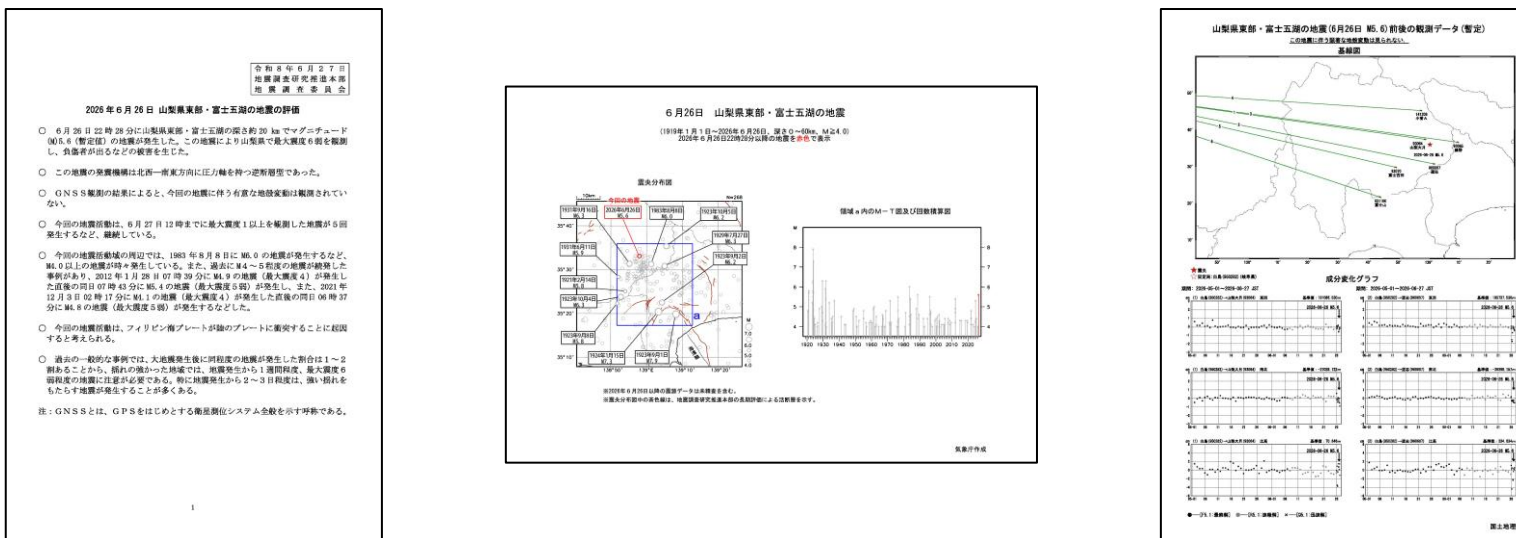
2026年5月の地震活動の評価(抜粋)

評価した主な地震（2025年～）

2025-01-13	日向灘の地震活動	M 6.6	最大震度 5 弱	津波を観測
2025-01-23	福島県会津の地震活動	M 5.2	最大震度 5 弱	
2025-04-18	長野県北部の地震活動	M 5.1	最大震度 5 弱	
2025-07-03	2025年6月21日からのトカラ列島近海（悪石島～宝島の領域）の地震活動	M 5.5	最大震度 6 弱	
2025-07-30	ロシア、カムチャツカ半島の地震活動	Mw 8.8	—	津波を観測
2025-09-17	トカラ列島近海（諏訪之瀬島付近）の地震活動	M 4.7	最大震度 5 弱	
2025-10-25	根室半島南東沖の地震活動	M 5.8	最大震度 5 弱	
2025-11-09	三陸沖の地震活動	M 6.9	最大震度 4	津波を観測
2025-11-25	熊本県阿蘇地方の地震活動	M 5.8	最大震度 5 強	

2025-12-08	青森県東方沖の地震活動	M 7.5	最大震度 6 強	津波を観測
2026-01-06	島根県東部の地震活動	M 6.4	最大震度 5 強	
2026-04-01	茨城県南部の地震活動	M 5.0	最大震度 5 弱	
2026-04-18	長野県北部の地震活動	M 5.0	最大震度 5 強	
2026-04-20	三陸沖の地震活動	M 7.7	最大震度 5 強	津波を観測
2026-04-27	十勝地方南部の地震活動	M 6.2	最大震度 5 強	
2026-05-15	宮城県沖の地震活動	M 6.4	最大震度 5 弱	
2026-05-20	沖縄本島近海の地震活動	M 5.9	最大震度 5 強	

2026年6月27日の臨時の地震調査委員会における2026年6月26日の山梨県東部・富士五湖の地震の評価(抜粋)



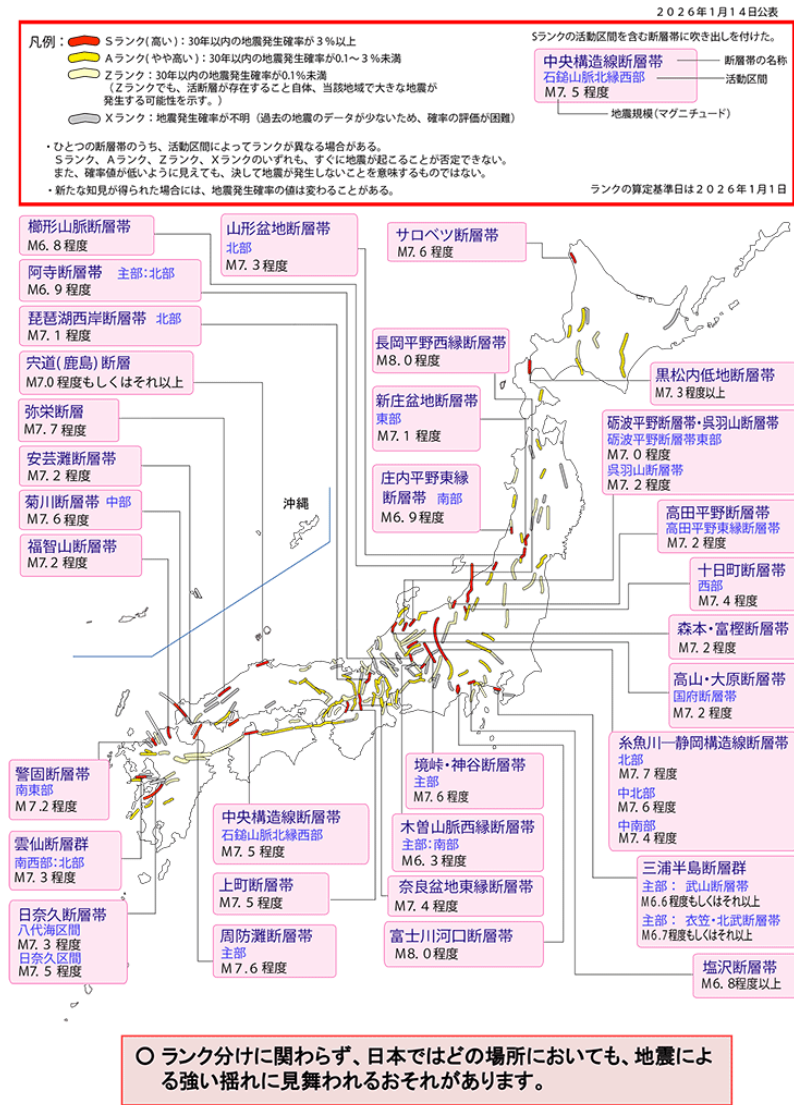
最近 1 年間における臨時の地震活動の評価

評価日	評価対象地震	発生日	最大マグニチュード（M）、最大震度等
2026年6月27日他	山梨県東部・富士五湖	2026年6月26日	M5.6、最大震度6弱
2026年6月25日他	岩手県沖	2026年6月25日	M7.2、最大震度6強、津波を観測
2026年4月21日他	三陸沖	2026年4月20日	M7.7、最大震度5強、津波を観測
2025年12月9日他	青森県東方沖	2025年12月8日	M7.5、最大震度6強、津波を観測
2025年7月4日他	トカラ列島近海	2025年6月21日～7月7日	M5.6、最大震度6弱

2. 長期評価：主要活断層帯

主要活断層帯※で発生する
将来の地震について、
規模・場所・発生可能性を評価したもの

※長さ**20km以上**の活断層帯。
全国に114分布（2021年3月現在）。



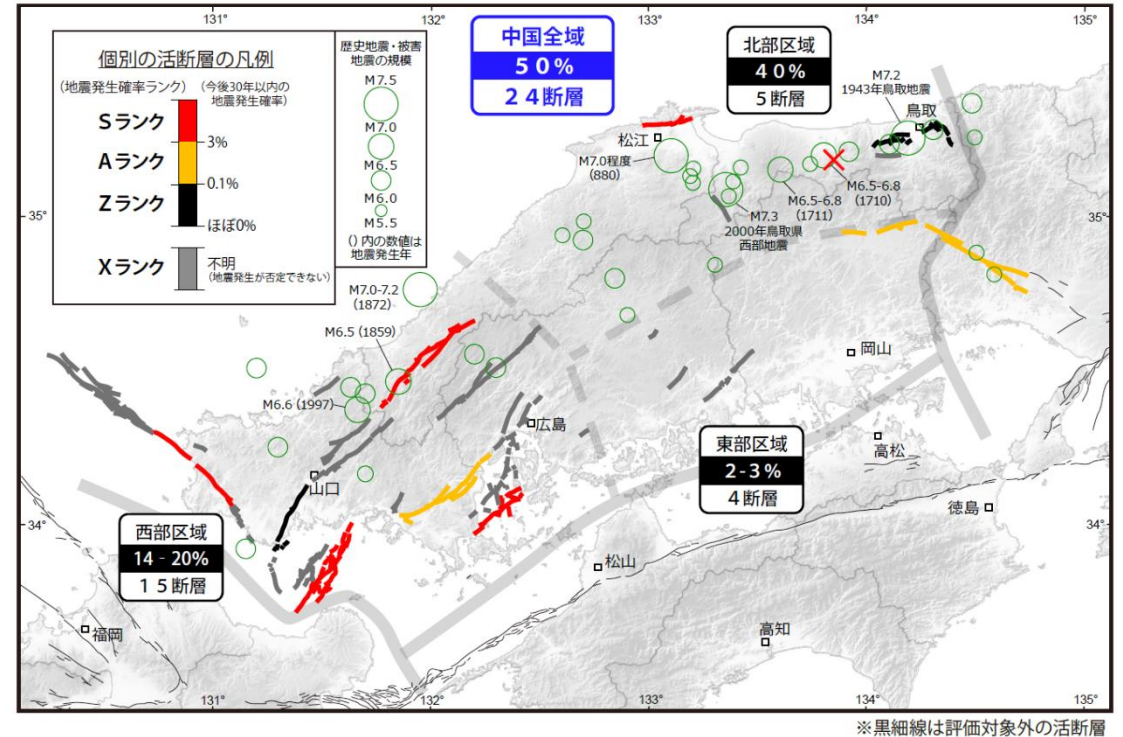
主要活断層帯の評価結果一覧

2. 長期評価：活断層の地域評価

- 対象活断層の拡大
20km以上→ 20km未満のものも
陸域 → 陸域と沿岸海域
- 評価方法の追加
個別の活断層の評価
に加えて、
地域単位の活断層の評価

地域評価の公表状況

地域	評価年月
四国地域	2017年12月
中国地域	2016年7月
関東地域	2015年4月
九州地域	2013年2月



評価した活断層数：24（うち主要活断層帯数：13）

中国地域の活断層の長期評価(2016年7月公表)より

2. 長期評価：海域活断層の長期評価

海域にも活断層が存在し、地震動や津波により被害を及ぼす可能性

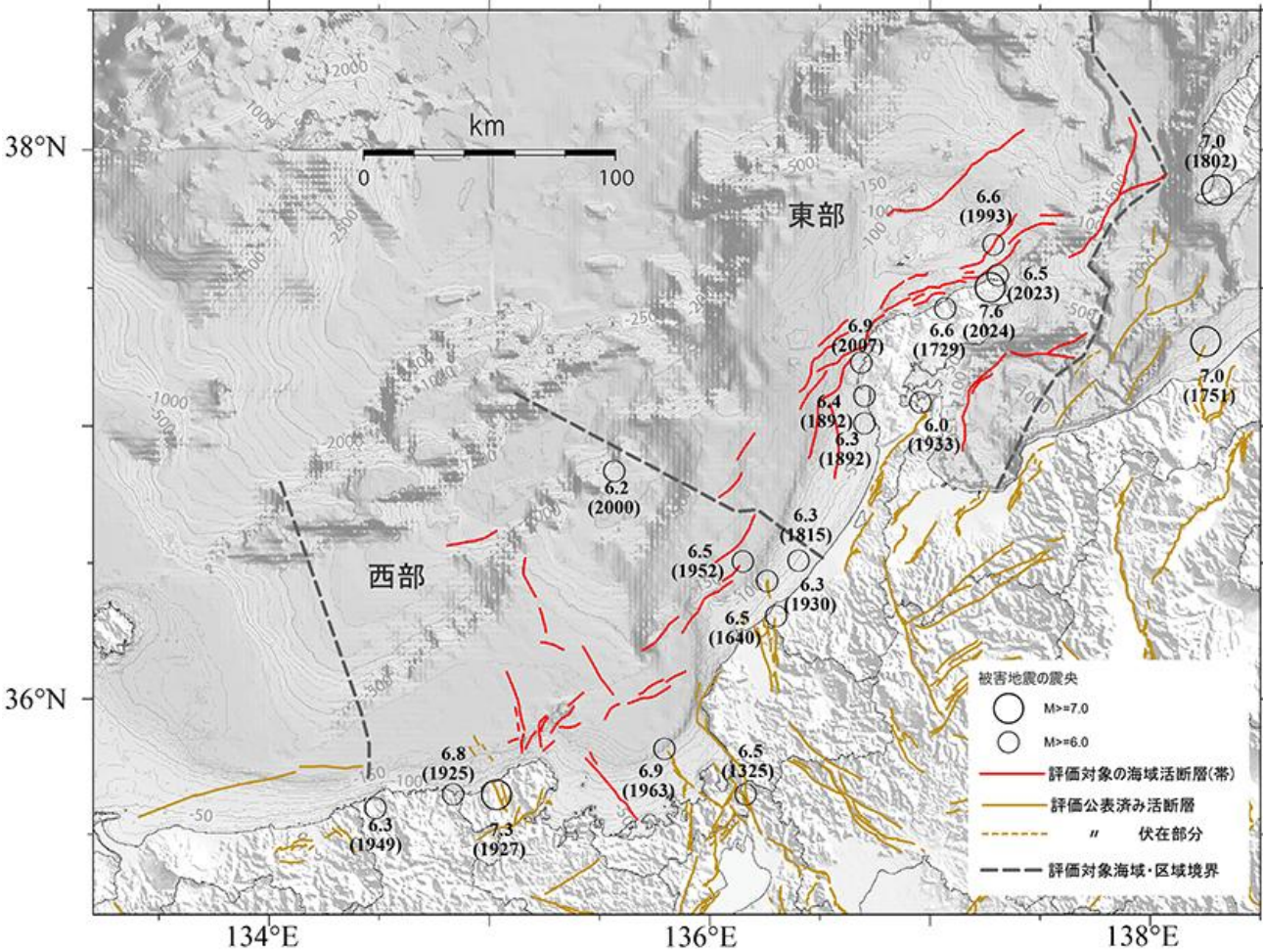
断層長さ20km程度以上の海域活断層が主な評価対象

評価対象海域の海域活断層帯のいずれかを震源としてM7.0 以上の地震が発生する確率を評価

公表状況

海域	評価年月
日本海中南部 —近畿地域・北陸地域北方沖—	2025年6月
日本海側 —兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖—	2024年8月※
日本海南西部 —九州地域・中国地域北方沖—	2022年3月

※活断層の位置・形状やそこで発生する地震の規模に関する情報等を公表

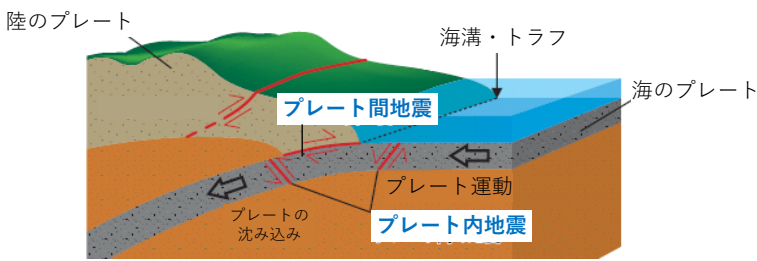


日本海中南部の海域活断層の長期評価
—近畿地方・北陸地域北方沖—(2025年6月公表)より

2. 長期評価：海溝、トラフ沿い

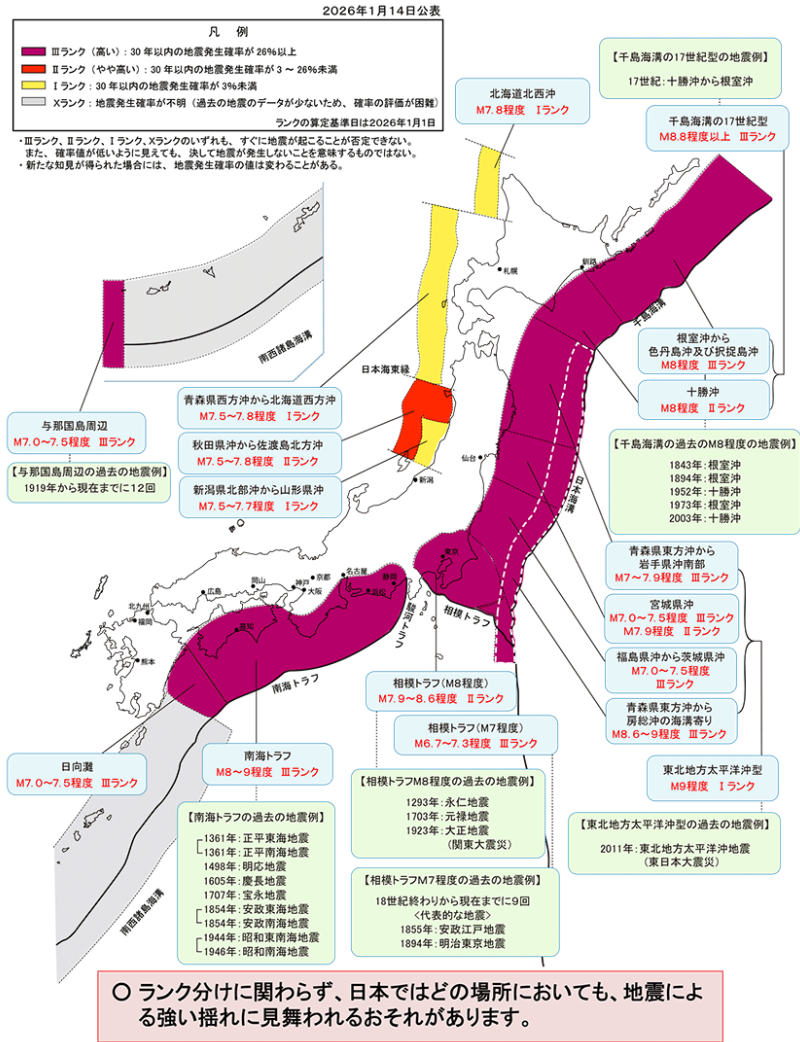
将来の海溝型地震*について、
規模・場所・発生可能性を評価したもの

* 海溝・トラフ沿いで発生するプレート間地震と海のプレート内地震のこと



海溝型地震の長期評価（各領域の最新版）

海域	評価年月
南海トラフ(第二版一部改訂)	2025年9月
日向灘から南西諸島海溝(第二版)	2022年3月
日本海溝	2019年2月
千島海溝(第三版)	2017年12月
相模トラフ(第二版)	2014年4月
日本海東縁部	2003年6月

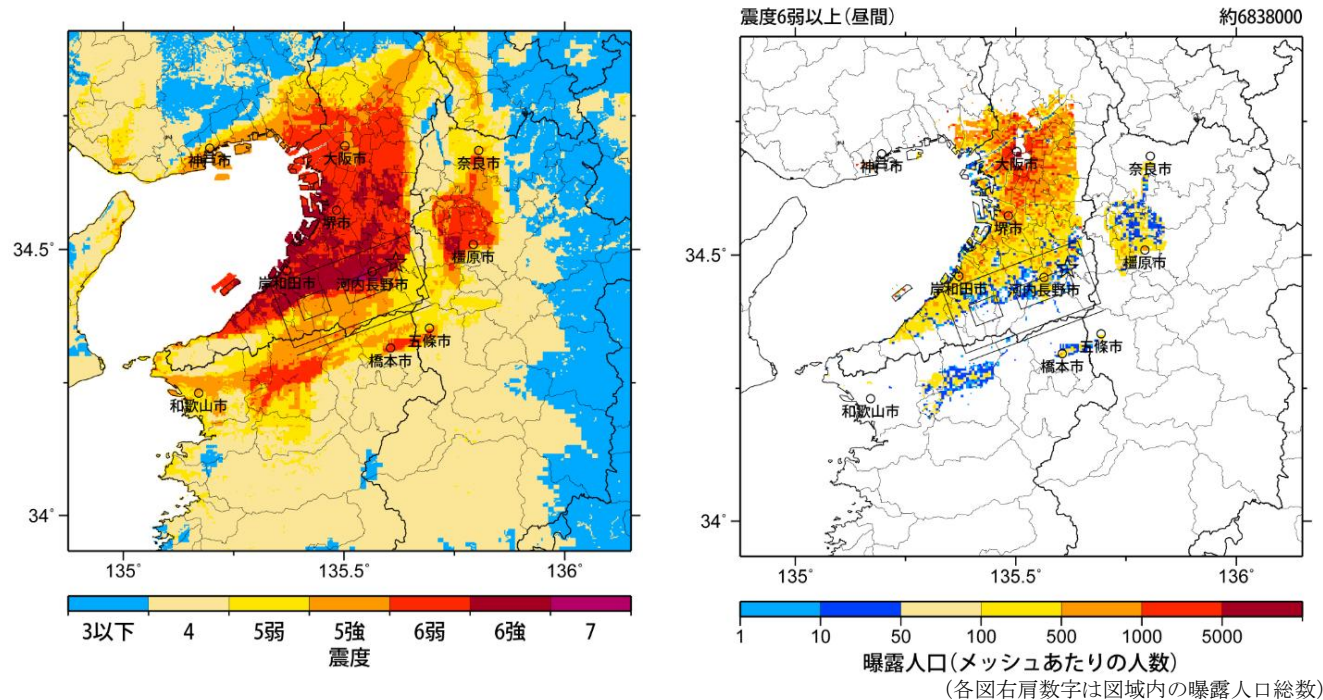


主な海溝型地震の評価結果（ランク）一覧

3. 強震動評価・全国地震動予測地図

シナリオ地震動予測地図 + 確率論的地震動予測地図

ある特定の震源断層において、地震が発生した場合に各地点がどのように揺れるのかを計算してその分布を示した地図。活用例として、ある震度以上の揺れにさらされる人口の分布を示すものがある。



計算結果やモデルの数値データの配信

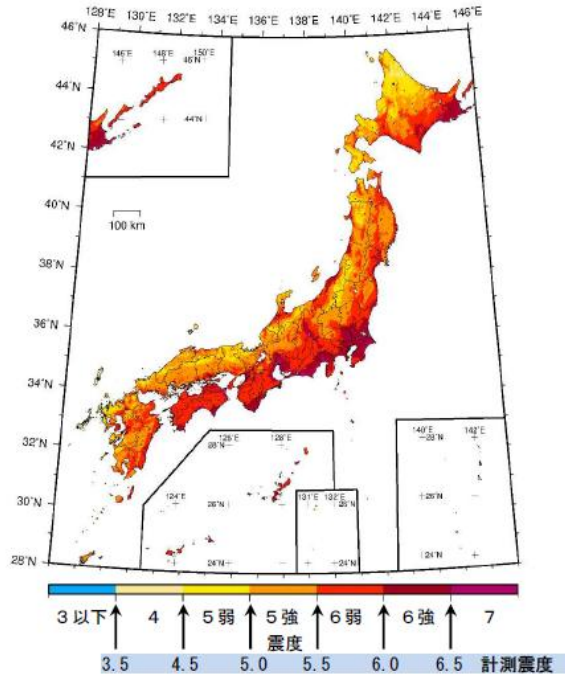
防災科学技術研究所
地震ハザードステーション J-SHIS
<https://www.j-shis.bosai.go.jp/>

中央構造線断層帯五条谷区間が単独で活動する地震による地表震度分布の例（左）、同区間で発生する地震で震度6弱以上の揺れにさらされる人口の分布の例（右）（全国地震動予測地図2020年版より）。活断層帯の活動区間を特定しても、地震の発生シナリオは多数考えられ、そのうちの一例であることに注意が必要。

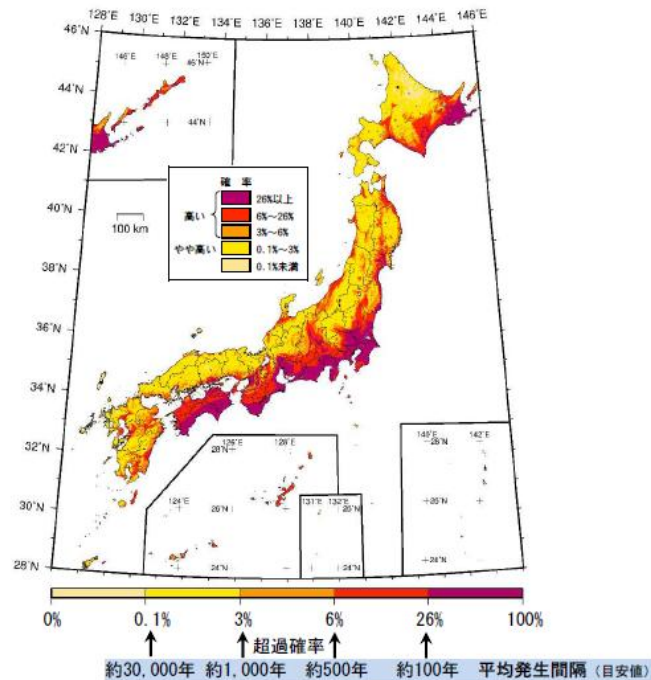
3. 強震動評価・全国地震動予測地図

シナリオ地震動予測地図 + 確率論的地震動予測地図

ある時点で**考慮し得るすべての地震の位置・規模・確率**に基づいて、将来の一定期間内（例えば今後30年間）に各地点がどの程度の確率でどの程度揺れるのかをまとめて計算し、その分布を示した地図群。**揺れの強さと確率のどちらかを固定して、残りを地図**に示している。



今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度／**確率を固定して震度を示した地図**の例。
確率の評価基準日は2020年1月1日。



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率／**揺れの強さを固定して確率を示した地図**の例。
確率の評価基準日は2020年1月1日。



計算結果やモデルの数値データの配信

防災科学技術研究所
地震ハザードステーション J-SHIS
<https://www.j-shis.bosai.go.jp/>

※シナリオ地震動予測地図と確率論的地震動予測地図を合わせて「全国地震動予測地図」と呼んでいます。

4. 津波評価（確率論的津波評価）

海溝型地震の津波評価

地震調査委員会では、これまで取りまとめてきた地震発生可能性の長期評価に基づいて、津波の評価を実施。令和2年1月に南海トラフ沿いで発生する大地震による津波を対象にした評価を公表。

南海トラフ沿いで発生する大地震の確率論的津波評価

今後30年以内に南海トラフ沿いで大地震が発生し、海岸の津波高が**3 m以上、5 m以上、10 m以上になる確率**を評価。

「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」（平成25年5月公表）で想定されている、**100年～200年で繰り返し発生する大地震（M8～M9クラスの地震）**を評価の対象。なお、**最大クラスの地震は対象外**。

震源域の組み合わせとして176のパターンを想定。さらに、「波源断層を特性化した津波の予測手法（津波レシピ）」（平成29年1月公表）に従って、大すべり域※の設定も含めて348,345ケースで津波高を計算。

※大すべり域：ある震源域の中で、すべり量の大きな領域。

各ケースの起こりやすさを重み付けし、津波高の計算結果を評価地点ごとに重ね合わせて、ある評価地点における確率を算出。

それらをまとめて、**地図と市区町村ごとの表**として表示。

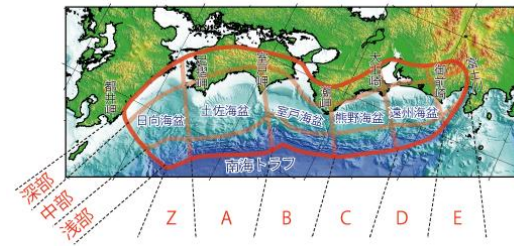


図1 南海トラフの評価対象領域とセグメント

深さ	推定破壊域					
	Z	A	B	C	D	E
浅部						
中部						
深部						
浅部						
中部						
深部						
浅部						
中部						
深部						
浅部						
中部						
深部						

図2 震源域の組み合わせのパターンの例

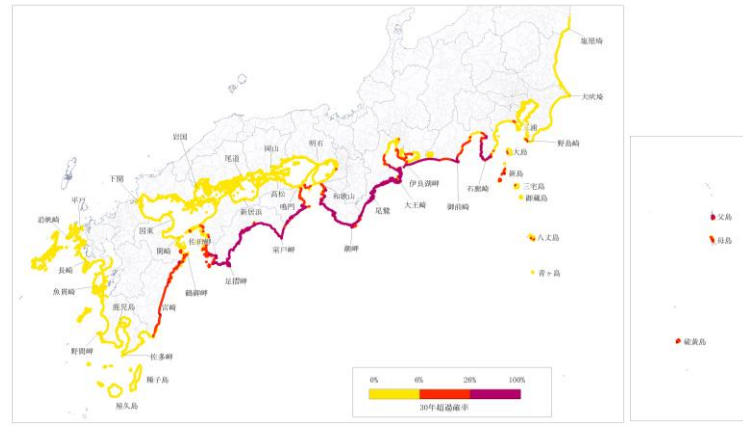


図3 今後30年以内に南海トラフで大地震が発生し、海岸の津波高が3m以上になる確率

その他の評価、評価に用いた手法（技術資料） など

■長期評価

- ・ 長期的な地震発生確率の評価手法について
- ・ 活断層の長期評価手法報告書（暫定版）

■強震動評価

▲強震動予測手法

- ・ 震源断層を特定した地震の強震動予測手法（「レシピ」）
- ・ 観測記録に基づく強震動評価手法の検証

▲地下構造モデル

- ・ モデル作成の考え方：地下構造モデル作成の考え方
- ・ 地震基盤以深の地殻構造モデル：全国1次地下構造モデル（暫定版）
- ・ 浅部、深部地盤構造モデル
- ・ 浅部・深部統合地盤構造モデル：関東地方、東海地方

▲長周期地震動予測地図（試作版）

- ・ 想定東海地震、東南海地震、宮城県沖地震
- ・ 南海地震（昭和型）
- ・ 相模トラフ巨大地震

▲応答スペクトルに関する地震動ハザード評価（試作版）

- ・ 東京、名古屋、大阪

■津波評価

- ・ 波源断層を特性化した津波の予測手法（「津波レシピ」）